

いばらき風土記新聞等コンクール 審査講評

常陸国風土記編纂 1300 年を記念して行われました本コンクールに対し、県内各地域の小学校から 1,477 点もの作品が応募されました。作品は、風土記編纂の詔の趣旨(意味)を踏まえ、郷土いばらきの自然や産物、それぞれの地域の伝統・文化、伝説などを、調べてまとめた現代版の風土記です。

最優秀賞の『「密筑の大井」特集』は、そのテーマ設定や紙面の独創性、さらに作品としての完成度の高さが評価されました。現在もきれいな水がこんこんと湧き出ている日立・泉が森については、常陸国風土記にも「密筑(みつき)の里」として取り上げられています。作品は、見出しを「1300 年前も今も湧き続ける密筑の大井」として、常陸国風土記の記述についての説明はもちろん、実際に泉が森や市の郷土博物館を訪問したり、地元の方へインタビューをしたりしてわかったことを、手作りの地図や想像図、年表、イラスト、写真などを活用してわかりやすくまとめています。また、国語や算数、理科などの視点から「密筑の大井」を多面的に調べ表現した「日本一受けたい授業」の記事は、読む人を引き付けるアイデアです。

優秀賞及び奨励賞を受賞された作品全体を通して、地域のよさを紹介するために、その土地を訪ねたり、聞き取り調査をしたりといった「実際に見て、聞いて、触れて」といった体験を取り入れながら、丁寧にそして具体的にまとめられていました。また、参考になる資料を「集める」、「読み取る」、さらに年表や地図、グラフ、イラストや写真などを活用し、読む人の視点に立って「まとめる」といった過程を大事にし、新聞の最後には、調べて分かったことや感じたこと、考えたことを自分の言葉で表現している作品が多くありました。

現在、それぞれの地域の特色ある伝統・文化、産業等について、子どもたちが学習した成果を、「地域自慢」として、各小学校のホームページから発信・紹介しております。こちらもぜひご覧になっていただきたいと思います。

これからも、身近な地域や郷土いばらきのに関心を持ち、郷土への親しみや愛着をより深め、茨城を担う大人に成長されることを期待しております。